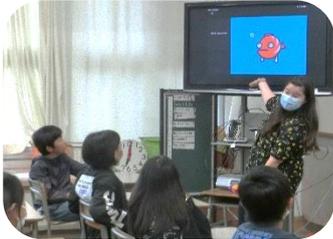


全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	5年 英語科（9月～） Unit9 I love my town.
テーマ番号, テーマ ③ 言語活動の充実	高知県南国市立日章小学校 英語担当 松岡 美帆

聞きたい！知りたい！伝えたい！～スモールトークの工夫～



授業の導入時に、スモールトークを行っています。これまでのスモールトークは、ALTが端末機で画像を見せながらまとまった話をし、子どもたちは聞き取った語句や表現を発表していました。しかし、子どもたちが理解できない語句や表現も多く、高学年になるにつれて、反応が薄れ、発言する子どもが偏っていました。

そこで、スモールトークの内容は、授業で取り扱う内容や場面にして、子どもたちの学習意欲を引き出すようにしました。また、ALTの先生の体験について、新出表現や既習表現でやりとりするなど、子どもたちが繰り返し聞き慣れ言い慣れができるよう心がけました。

Let's Think and Guess:

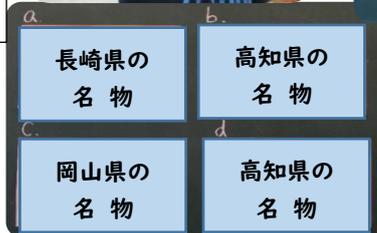
兵庫のお城？white て言ってたから「b」かな。
へ～、しらすぎ城とも言うのか。

This castle is in Hyogo. It is one of the World Heritages.
It is white and beautiful. Its nickname is Shirasagi-jo.



This is a sweet from Okayama.
It's in an old Japanese story.
A dog, monkey, and bird eat it....

dog, monkey, bird てことは..桃太郎の話？「c」は、おこしにつけたあれかな。岡山県は桃太郎で有名なんだね。



上の写真は5年生「自分の町を紹介しよう This is my town.」での実践です。学ぶべき表現の言語材料は「It's famous for ～.」「This is ～.」です。そこを意識してALTにスモールトークをしてもらい、クイズ形式で回答させます。回答の際には、根拠となった聞き取った内容を話すこととしました。

そして、可能な限り子どもたちに身近な生活場面を取り上げ、高学年の子どもたちの知的好奇心をくすぐることにしました。使う表現は、授業で取り扱う表現を使うことはもちろん、既習の表現をなるべく使うように改善。子どもたちが知っていそうで知らない内容をクイズ形式で紹介することで、子どもたちは自分の生活経験を思い出したり、比べたりしながら、一生懸命に聞くようになりました。そして、たくさんの子子どもたちが自分の考えや感想を言い始めました。子どもたちが「英語を聞きたい！知りたい！伝えたい！」と思えるような工夫をこれからもしていきたいと思えます。



指導助言・アドバイスコナー

移行期にご活用いただいた文部科学省作成・配布した高学年用教材例「We Can」では、言語活動の一つである Small Talk が位置付けられています。「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」では、その主なねらいは、「既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図る」「対話を続けるための基本的な表現の定着を図る」と記しています。このようなねらいを達成するためには、松岡教諭の実践の通り、子供にとって身近な生活場面を取り上げ、該当単元で新しく学習する語句や、表現や既習語句や表現を何度も何度も、場面を変え、相手を替えて使うことが大切です。言葉はすぐには身に付かない、何度も何度も繰り返し使って初めて身に付くからですね。(文科省視学官 直山 木綿子)